

初年度の審査を終えて(審査総括)

愛媛大学教育改革諮問委員会委員

理事(教育担当) 柳澤 康信

この度、平成18年度の愛媛大学教育改革促進事業の審査を終え、10件のプログラム等を採択しました。ご申請いただいた皆様には厚く御礼を申し上げます。

今回が初の審査となりましたが、採択となったもののみならず、不採択となったものの中にも、今後の愛媛大学の教育改革を推し進めていく上で、参考となる点が数多く含まれておりました。このため、採択プログラムを選ぶ作業は困難を極めました。最終的には、なるべく多くの委員の意見が一致したものを採択しました。

採択及び不採択の理由については、それぞれ実施責任者にお伝えしているところですが、評価の高かった点と併せ、課題となる点についても記載しましたので、今後のプログラム等の実施や改善の際に役立てていただきたいと思います。

また、秋には、公開シンポジウムの実施も予定していますので、積極的に参加され、併せて参考としていただければと思います。

教育改革は、日々の活動の積み重ねがあって成り立つものです。各学部等におかれましては、教育コーディネーターを中心として様々な活動に取り組んでいただきますよう、よろしくお願いいたします。そして、来年度、さらに多くの申請をいただきますよう重ねてお願いいたします。

【採択プロジェクト・プログラム及び採択理由】

| 種目 | 学部等／採択プログラム・プロジェクト名 | | 実施責任者 |
|----------|---------------------|--|-------|
| 1 (1) | 法文学部 | 人文学科における資格認定型プログラムの構築 | 森 孝明 |
| | 採択理由 | <p>この取組みについては、学生や高校・企業等のニーズの分析を元に従来のコースを見直し、新しく“副専攻”型といえるプログラムを導入するなど人文学科を挙げて教育改革に臨み、さらには学科における教育体制・カリキュラムの将来像を示した点が評価されました。</p> <p>しかしながら、タイトルに「資格認定型」と謳っていることと実際の取組の内容がかみ合っていない、AO入試の内容やカリキュラムの具体的なイメージも未消化である、といった評価もなされています。ヒアリング時のプレゼンテーションにも改善の余地が見られました。今後、ヨーロッパ・オセアニア圏で連携を取れる大学をどう確保して行くか、実際に示すことが必要になるでしょう。</p> | |
| 1 (2) | 教育学部 | 学生企画型地域連携実習の拡充による教員養成カリキュラム改革 | 曲田清維 |
| | 採択理由 | <p>この取組みは、教育学部における教員養成カリキュラムの体系化を目指すものであり、また現代的ニーズにも対応しており地域のPTAなどからの支援を得ていることは高く評価できます。</p> <p>なお、教員の関わりや支援についてさらに具体化すること、カリキュラム体系における明確化(必修と選択の区別など)が必要との指摘があったことを付記します。</p> | |
| 1 (2) | 理学部 | 保護者との連携による学生支援体制の充実 | 野倉嗣紀 |
| | 採択理由 | <p>この取組みについては、第一に、正・副学生担当教員の二名体制によるバランスのとれた指導体制ができていること、第二に、卒業研究発表会を保護者と高校教員へ公開することで大学の情報公開、地域貢献、学生の学習動機づけという複数のメリットをもたらしていること、第三に、学生指導マニュアルを作成することで、教員間で指導方法を共有し質の向上を目指そうとしていることなどが高く評価されました。学部一体となったきめ細かい学生指導は、他学部の見本となる取組であり、全学への波及効</p> | |

| | | | |
|----------|------|--|------|
| | | <p>果を期待して選定しました。</p> <p>今後、事業を進行するにあたって、留意していただきたい点は下記のとおりです。</p> <p>第一に、キャリア教育との接続です。保護者の大きな関心の一つは、学生の進路です。同時進行で行われているキャリア教育プログラムを含めた総合的な学生支援体制の開発を期待します。</p> <p>第二に、大学教員の能力開発です。</p> <p>保護者からの相談に応える上で、最低限必要となる知識やコミュニケーションスキルを身につけるためのセミナーや学習会が必要でしょう。学生指導マニュアルはそのための冊子でしょうが、更に読みやすく、使いやすいものへの改良を期待します。それが完成すれば他学部教員への配布も視野に入れてほしいものです。</p> <p>第三に、全学組織との連携です。総合健康センターのみならず、教育・学生支援機構学生支援センターとの連携を強化することで、学部教員では対応が難しい分野への対応が可能となるでしょう。</p> <p>第四に、留年生対策です。どの学部でも対策が見えずに困っている分野ですから、良きモデルの開発を期待します。</p> | |
| 1 (2) | 医学部 | ベッドサイドで患者様から学ぶために 医学部医学科 における臨床実習と臨床準備教育の充実 | 橋本公二 |
| | 採択理由 | <p>この取組みは、「地域にあって輝く大学」の実現に貢献するため、医学教育の充実に努めているもので、その一つの方策として臨床前教育の充実強化を図るとともに、臨床実習のカリキュラム改編を行い、卒前教育の高度化等に取り組んでいます。これらの実践は高く評価できます。また、本プログラムでは新規開講のpreBSLの効果や問題を詳細にチェックするなども予定しており、他学科へも好ましい影響を与えるものです。コーディネーターの関わりも明確である点も評価できます。</p> | |
| 1 (2) | 医学部 | 医学部両学科新生における生物学・化学のレディネスの調査とリメディアル教育の実践 | 橋本公二 |
| | 採択理由 | <p>この取組みは、学部一体となって初年次教育を充実させるとともにリメディアル教育実践を試みようという点が評価できます。教育コーディネーターの役割も明確にされており、全学的に取り組まれる課題の先行的試行とも位置づけられます。ただ、計画されているリメディアル教育の実践は通常の教育の改革・改善としても不断に取り組まれるべきといった意見</p> | |

| | | | |
|----------|------|--|------|
| | | <p>もありました。</p> <p>また、取組にあたって、教育充実に熱心な一部の教員にのみで終始する可能性についても指摘がありました。</p> | |
| 1 (2) | 工学部 | 天津における技術者インターンシップの実施 | 高松雄三 |
| | 採択理由 | <p>この取組については、従来の語学中心の国際化志向の枠を越えて、海外のモノづくりの現場に学生諸君を派遣し研修させるという先駆的な内容を有する試みであり、中期目標・中期計画に沿った形で学生に国際的な技術者としての懐の深い素養を身に付けさせることを目指すものとして現代的な価値を有するものであります。天津の企業および大学との連携も緊密であり、行きとどいており、また、将来の就職に向けての就業意欲の向上に確実に寄与する可能性がある点が評価されました。</p> <p>なお、課題として、学部横断的な取組みに発展させ、プログラムの構造化を進めるとともに、英語世界についても検討を進められるようご留意ください。</p> | |
| 1 (2) | 農学部 | 農学部森林資源学コースにおける教育方法の改革「森に出会い、感じ、考えて行動する学生を育てるカリキュラムの開発」 | 泉 英二 |
| | 採択理由 | <p>この取組みについては、森林科学I～VIIIについてそれぞれ階層的構造的な教育目標を設定し、とりわけ、座学をいったん離れて森林の中で研究学習を学生の自主性を最大限尊重しつつ展開し、その問題発見とフィールドでの課題を追及する力を涵養するというものであり、また、それらの取組みはポートフォリオによって精密に評価記録され、表立って活動している学生ばかりか、裏方で貢献した学生への評価への心配りもあり、経験者の大学への復帰後の学習意欲の向上も確認されている点などが評価されました。全学をリードするものとして期待します。</p> <p>課題としては、グループにリーダーとサブリーダー等をしっかり任命し、その役割分担を明確にし、全体としての学習課題をより明確に設定することが望ましく、そのためにも、TAの事前指導と準備を十分にすることが望まれます。</p> | |
| 2 | | 大学数学教育の前提となる高等学校までの基礎学力養成を支援するテキストの開発 | 坂口 茂 |
| | 採択理由 | この取組みは、中期計画・目標に沿った高校-大学間の円滑な教育課 | |

| | | |
|---|------|--|
| | | <p>程の連続性を確保する上で、また、一般に本学学生の数学基礎教育の改善にとって極めて有意義な取組みです。特に汎用性のあるテキストであり、本編の他に予備編や更に上級への掛け橋となる続編など、種々の発展性も秘めている、自学自習への配慮を基礎にしている点などが評価されました。</p> <p>課題としては、テキストそのものにおいてはレイアウトやアイコンなどに工夫が必要であり、現場の教育実践との関係性がよりはっきりと打ち出されるべきであること、また、大学課程での数学のつまづきが、高校段階での不十分な学習準備にのみ帰されるものではなく、固有の問題性もはらんでいるのではないかなどという点につき、今後の実践的に踏み込んだ検討を期待します。</p> |
| 2 | | <p>「学生中心の大学」のための初年次科目の創成</p> <p>小林直人</p> |
| | 採択理由 | <p>この取組みでは、「新入生セミナー」や「コース初歩学習科目」等を設け、従来の初年次教育に柔軟性を持たせるとともに、「パッケージ学習」を創設するなど意欲的な内容が計画されています。また、FD活動と学生の自己評価活動を組み合わせ、教員の学習指導に対する到達度評価も行うなど、全学の教育改善に対する効果も大きいと評価できます。愛媛大学として取り組むべき課題が明確で具体的内容も明示されており、今後の成果を期待するところですが、このような授業への取組みのみならず初年次学生に対する他の様々な支援活動との連携もお願いします。</p> |
| 2 | | <p>新しい生命科学教育法開発の試み－試験管内タンパク質合成法を基盤とした実習教材の開発と教育法の実施</p> <p>林 秀則</p> |
| | 採択理由 | <p>この取組みについては、愛媛大学独自の生命工学技術を応用した全国発信が可能な教育プログラムの開発である、とくに遺伝子組み換え技術に伴う法的な制限をクリアして高校などでも実施できるように教材をキット化する工夫をしている、学生にとっても結果が分かりやすい発光タンパク質という系を利用している、組織横断的取組という種目(2)の趣旨に良く合致する、といった点が評価されました。今後、理系学生だけではなく、教育学部をはじめとする文系学生へのカリキュラム上の配慮が望まれます。</p> |